島根県ＤＳＣ会長
野島辰彦

戦後全国各地に出来た風俗営業であるダンスホールによって国民に浸透してきた「社交ダンス」も時代と共に随分形態が変わってきたように思います。私が始めた当時は「職場ダンス」の時代で各職場の労働組合がクリスマス時期に盛んにパーティー、レッスンを行っていました。その後青年サークルや公民館ダンスが立ち上がり、最近ではダンススポーツとして風営法適用を外すべく運動を展開しています。ダンスの楽しみ方もホールダンス、公民館、教室デモ、競技ダンスとそれぞれですが、一般的に言われるスポーツとして体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえ、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらす内在的な価値もあり、各県で競技会が開催されるようになりました。以前の競技会は一部のダンス愛好者だけの特化したものでありエントリー申し込みも教室単位で、どこにも所属していない人が出場することはほとんど無かったように記憶しています。

島根県は地理的な面で主に競技会が開催される山陽、関西に出かけるには一日がかりであり手軽にというわけにはいきません。島根県連盟主催競技会も皆様のご協力があり今年10月26日（日）松江市開催予定で10回の記念大会となります。

身近で行われる大会によりトップ選手を直に観戦し、それをきっかけに競技を始められた方も沢山おられ、すそ野を広げる好環境を生み出しています。

とは言ってもダンス人口が極端に少なく登録組数も10組にも満たない中での運営は困難を極めていますが、役員はほとんど苦労とは感じていないようです。県外から島根に来られ一昨年は世界遺産登録の石見銀山、昨年は60年に一度の遷宮出雲大社等、旅行も兼ねて喜んで帰って頂く、そしてホテル手配、写真送付などお世話をさせて頂くことで身近な存在として交流を深める、そんな心の交流がダンスの醍醐味である曲に合わせて踊る心地よさに通じるもののような気がします。

スポーツを通じた交流は、地域の一体感や活力を醸成し、大げさに言えば人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生につながるものと思います。

少子高齢社会を迎え、早い時期でプロ転向の傾向があるジュニア世代だけでなく、中年層にどうアプローチしていくかが将来的なダンス普及に対しての課題です。

多くの人々がダンスの楽しさや感動を分かち、互いに支え合う「スポーツ文化」を伝承しそれを次の世代に引き継げるよう努力したいと思います。